

6 子どもと子育てをめぐる状況

(1) 就学前児童の保育

ア 就学前児童の育児状況

アンケート調査では、子どもの年齢別の主な預け先は、保育所(園)が0歳児で6.2%、1歳児で16.4%、2歳児で20.0%、3歳児では幼稚園が61.2%で保育所(園)が22.5%、4歳児では幼稚園が64.5%で保育所(園)が23.3%、5歳児では幼稚園が62.0%で保育所(園)が25.5%となっており、0歳児では9割以上が、1歳児・2歳児では約8割が家庭内保育であり、3歳児では8割強が、4歳児・5歳児では9割近くが幼稚園もしくは保育所(園)に通っています。

就学前児童の状況（平成15年度）

		合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
総 数		3,537 100.0%	534 100.0%	566 100.0%	619 100.0%	564 100.0%	639 100.0%	615 100.0%
保育所	公立	325	16	37	52	61	75	84
	私立	358	17	56	72	66	74	73
	計	683 19.3%	33 6.2%	93 16.4%	124 20.0%	127 22.5%	149 23.3%	157 25.5%
幼稚園	公立	825				263	287	275
	私立	313				82	125	106
	計	1,138 32.2%				345 61.2%	412 64.5%	381 62.0%
保育所・幼稚園以外		1,716 48.5%	501 93.8%	473 83.6%	495 80.0%	92 16.3%	78 12.2%	77 12.5%

資料：児童福祉課、学校教育課

イ 保育サービス等の実施状況

本市では、乳児保育促進事業、延長保育促進事業を全保育所で、ふれあい保育などの地域活動事業は河原保育所、大住保育園、みみづく保育園を除く保育所で、一時的保育事業は河原保育所で実施しています。また、地域子育て支援センター事業は大住保育園に、乳幼児健康支援一時預かり事業（病後児保育）はやすらぎ保育園（事業所内保育所）にそれぞれ委託して実施しています。

なお、幼稚園では子育て支援を目的に、月・火・木・金曜日に教育時間終了後から午後4時までの預かり保育を、平成15(2003)年6月から3園で試行実施し、平成16年度は全園（8園）で試行実施しています。

保育所特別保育事業実施状況

名 称		実施事業	内 容
公 立	河 原 保 育 所	延長保育促進事業	7:00～8:30、16:30～19:00
		乳児保育促進事業	産後休暇明け保育（57日目から）
		一時的保育促進事業	平成14年度年間延べ利用児童数1,566人
	草 内 保 育 所	延長保育促進事業	7:00～8:30、16:30～19:00
		乳児保育促進事業	産後休暇明け保育（57日目から）
		保育所地域活動事業	保育所体験特別事業（ふれあい保育） 毎月第1・3木曜日 園庭開放 平成14年度月1回 延べ利用児童数207人 世代間交流事業
	三 山 木 保 育 所	延長保育促進事業	7:00～8:30、16:30～19:00
		乳児保育促進事業	産後休暇明け保育（57日目から）
		保育所地域活動事業	保育所体験特別事業（ふれあい保育） 毎月第1・3木曜日 園庭開放 平成14年度月1回 延べ利用児童数111人 世代間交流事業
	南 山 保 育 所	延長保育促進事業	7:00～8:30、16:30～19:00
		乳児保育促進事業	産後休暇明け保育（57日目から）
		保育所地域活動事業	保育所体験特別事業（ふれあい保育） 毎月第1・3木曜日 園庭開放 平成14年度月1回 延べ利用児童数32人
私 立	大 住 保 育 園	延長保育促進事業	7:00～8:30、16:30～19:00
		乳児保育促進事業	産後休暇明け保育（57日目から）
		地域子育て支援センター事業	育児相談 園庭開放 延べ参加児童数1,116人 あそびの教室 延べ参加児童数275人 (平成14年9月より実施)) 講演会 育児サークル支援活動
	松井ヶ丘保育園	延長保育促進事業	7:00～8:30、16:30～19:00
		乳児保育促進事業	産後休暇明け保育（57日目から）
		保育所地域活動事業	保育所体験特別事業（ふれあい保育） 毎月第1・3木曜日 園庭開放 平成14年度月1回 延べ利用児童数98人 世代間交流事業 育児講座・育児と仕事両立支援事業 平成14年度 1回実施 参加者14人
	みみづく保育園	延長保育促進事業	7:00～8:30、16:30～19:00
		乳児保育促進事業	産後休暇明け保育（57日目から）

資料:児童福祉課

一時保育の状況

	平成 11 年度		平成 12 年度		平成 13 年度		平成 14 年度		平成 15 年度	
	人数 (人)	日数 (日)								
緊急 (冠婚葬 祭等)	48	175	60	325	57	185	51	160	38	76
私的 (リフレ ッシュ 等)	80	247	99	313	68	242	94	317	141	402
非定型	170	766	142	723	125	865	204	1066	180	1089
合計	298	1188	301	1361	250	1292	349	1543	359	1567

資料：児童福祉課

乳幼児健康支援一時預かり事業（病後時保育）の実施状況

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
利用人数	44	78	55

資料：児童福祉課

保育所地域活動事業実施保育所数

	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
事業実施園数	4	4	4	4	4
世代間交流	3	3	3	3	3
異年齢交流	4	4	4	4	4
育児講座	1	1	1	1	1
合計	8	8	8	8	8

資料：児童福祉課

地域子育て支援センターの利用者の推移

	設置数	利用者数(人)		
		0～2歳	保護者	合計
平成 14 年度	1	1,854	1,759	3,613
平成 15 年度	1	3,827	3,429	7,256

資料：児童福祉課

ウ 保育サービス利用の理由

アンケート調査では、現状で保育所(園)を利用していない理由を「幼稚園に通っているから」、「家庭で育てたいから」あるいは「その必要がないから」と回答して

います。

今後、保育サービスの利用を希望する又は預けたい主な理由は、「現在就労している」20.8%、「そのうち就労したいと考えている」23.1%、「就労していないが、子どもに集団生活を経験させたいので、子どもを預けたい」17.2%となっています。

(2) 小学校児童の状況

ア 小学校児童の放課後の過ごし方

アンケート調査では、平日放課後の日常的な子どもの過ごし方は、14～16時では1・2年生の場合は「友だちの家や公園で過ごす」が最も多く、「学校にいる」がほぼ同程度でこれに続き、次いで「留守家庭児童会で過ごす」が1割強を占めています。しかし、3～6年生の場合は、「学校にいる」が4分の3以上となっています。

16～18時では、「学校にいる」がほとんどなくなる反面、「友だちの家や公園で過ごす」が最も多く、「習い事や学習塾」がこれに次いで多くなります。1年生の場合は「習い事や学習塾」より、「兄弟姉妹など子どもと過ごす」割合の方が多くを占めています。また、「留守家庭児童会で過ごす」も1・2年生で1割弱を占めています。

18～20時では、「友だちの家や公園で過ごす」がほとんどなくなり、「保護者や家族などの大人と過ごす」が最も多くを占めます。1～3年生の場合は、「保護者や家族などの大人と過ごす」割合は50%を超えていました。5・6年生の場合は「習い事や学習塾」が20%を超えるため、相対的に少なくなっています。

20時以降では、「保護者や家族などの大人と過ごす」が70%以上を占め、最も多くなります。「兄弟姉妹など子どもと過ごす」あるいは「家で勉強あるいは一人で過ごす」いわゆることどもだけの状態も1割以上を占めています。

また、休日の日常的な子どもの過ごし方は、「保護者や家族などの大人と過ごす」が60%を超えて最も多く、「クラブ活動や地域活動(子ども会活動、スポーツ活動)」14.2%がこれに次いでいます。しかし、「兄弟姉妹など子どもと過ごす」あるいは「家で勉強あるいはひとりで過ごす」いわゆることどもだけの状態も1割以上を占めています。

小学校児童の放課後及び休日の日常的な過ごし方

	14～16時									
	学校にいる	留守家庭児童会で過ごす	兄弟姉妹等子どもと過ごす	大人と過ごす	友達の家や公園で過ごす	習い事や学習塾	家で勉強又は一人で過ごす	クラブ活動や地域活動	その他	無回答
合計	62.5%	3.6%	4.6%	2.6%	15.2%	1.2%	4.0%	0.4%	0.9%	5.0%
1年生	21.2%	12.1%	9.1%	6.1%	24.2%	1.5%	18.1%		1.6%	6.1%
2年生	33.0%	10.2%	4.5%	3.4%	35.2%	2.3%	4.5%		3.5%	3.4%
3年生	75.0%	1.1%	1.1%	1.1%	15.2%	2.2%			2.1%	2.2%
4年生	78.8%		5.0%		3.8%		3.8%	1.3%		7.5%
5年生	79.0%		2.5%	2.5%	6.2%	1.2%	1.2%			7.4%
6年生	78.5%		5.4%	3.2%	7.5%			1.1%		4.3%

	16～18時									
	学校にいる	留守家庭児童会で過ごす	兄弟姉妹等子どもと過ごす	大人と過ごす	友達の家や公園で過ごす	習い事や学習塾	家で勉強又は一人で過ごす	クラブ活動や地域活動	その他	無回答
合計	0.4%	3.4%	10.0%	10.4%	37.1%	20.2%	9.8%	3.4%	1.3%	4.0%
1年生		7.6%	15.2%	12.1%	31.8%	12.1%	12.1%		1.5%	7.6%
2年生	1.1%	10.2%	11.4%	9.1%	39.8%	17.0%	8.0%		1.1%	2.3%
3年生		3.3%	8.9%	7.6%	51.1%	20.7%	3.3%	1.1%	0.7%	3.3%
4年生	1.3%		6.3%	8.8%	33.8%	25.0%	11.3%	6.3%	2.2%	5.0%
5年生			8.6%	12.3%	32.1%	25.9%	9.9%	6.2%	1.3%	3.7%
6年生			10.8%	12.9%	31.2%	19.4%	15.1%	6.5%	0.9%	3.2%

		18~20時									
	学校にいる	留守儿童会で過ごす	兄弟姉妹等子どもと過ごす	大人と過ごす	友達のや園で過ごす	達家の公で過ごす	習い事や学習塾	家で勉強又は一人で過ごす	クラブ活動や地域活動	その他	無回答
合計		0.2%	13.2%	52.5%	0.2%	11.4%	10.4%	2.2%	4.7%	5.2%	
1年生			10.6%	68.2%		1.5%	7.6%		4.5%	7.6%	
2年生			20.5%	58.0%	1.1%	2.3%	8.0%		6.7%	3.4%	
3年生			8.7%	54.3%		12.0%	13.1%	2.2%	5.4%	4.3%	
4年生			22.5%	46.3%		7.5%	11.3%	5.0%	2.4%	5.0%	
5年生			9.9%	42.0%		22.2%	12.3%	1.2%	5.0%	7.4%	
6年生		1.1%	7.5%	47.3%		20.4%	9.7%	4.3%	5.4%	4.3%	

		20時以降									
	学校にいる	留守家庭児童会で過ごす	兄弟姉妹等子どもと過ごす	大人と過ごす	友達の家や公園で過ごす	習い事や学習塾	家で勉強又は一人で過ごす	クラブ活動や地域活動	その他	無回答	
合計		0.2%	6.2%	71.1%		1.0%	7.8%	0.2%	7.8%	5.8%	
1年生			3.0%	71.2%			3.0%		13.7%	9.1%	
2年生			9.1%	73.9%				1.1%	11.4%	4.5%	
3年生			4.3%	75.0%		1.1%	9.8%		5.5%	4.3%	
4年生		1.3%	10.0%	68.8%		1.3%	7.6%		4.7%	6.3%	
5年生			4.9%	63.0%		2.5%	14.8%		7.4%	7.4%	
6年生			5.4%	73.1%		1.1%	6.7%		9.4%	4.3%	

		休日									
	学校にいる	留守家庭児童会で過ごす	兄弟姉妹等子どもと過ごす	大人と過ごす	友達の家や公園で過ごす	習い事や学習塾	家で勉強又は一人で過ごす	クラブ活動や地域活動	その他	無回答	
合計			11.2%	60.5%	6.2%	1.4%	1.2%	14.2%		5.4%	
1年生			15.2%	68.2%	3.0%		1.5%	3.0%		9.1%	
2年生			15.9%	65.9%	6.8%		1.1%	5.7%		4.5%	
3年生			8.7%	62.0%	3.3%	1.1%	2.2%	16.3%		6.5%	
4年生			10.0%	55.0%	11.3%	1.3%		18.8%		3.8%	
5年生			12.3%	55.6%	7.4%	3.7%	1.2%	12.3%		7.4%	
6年生			6.5%	57.0%	5.4%	2.2%	1.1%	25.8%		2.2%	

京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

イ 留守家庭児童会の在籍状況

留守家庭児童会は、両親が労働又は疾病等の理由により、長期にわたり学校の放課後、家庭において児童を保護育成する者がいない家庭のうち、保護者の希望により小学校1～3年生の児童を入会させ、放課後の生活を育成する学級です。開設時間は、平日は13時～18時、土曜日及び夏・冬・春休みは8時半～18時となっています。

留守家庭児童会の在籍者は、次のとおりです。

留守家庭児童会の在籍状況(平成15年)

	1年生	2年生	3年生
在籍児童数	101 (16.7%)	96 (16.5%)	35 (6.4%)
小学校児童数	604	581	547

資料：社会教育課

留守家庭児童会在籍数の推移

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
実施数	8	8	8	8	8
定員数(人)	320	320	320	320	320
在籍児童数(人)	177	235	206	232	232

資料：社会教育課

ウ 留守家庭児童会の利用希望

アンケート調査では、平日の留守家庭児童会への利用希望率は小学校児童の12.0%で、土曜日の利用希望率は6.8%となっています。

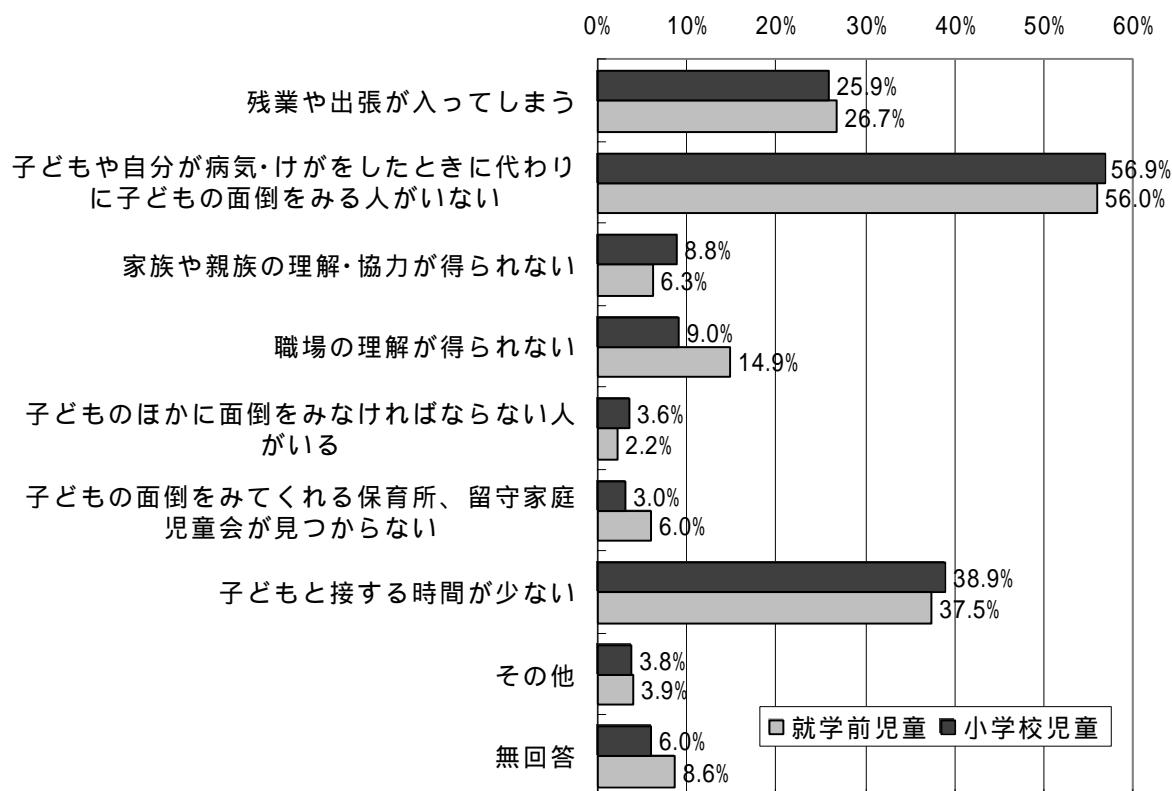
また、現在、留守家庭児童会に入会している理由は、すべてが「現在、就労している」に対し、これから入会を希望する理由は、「現在、就労している」が53.9%で最も多く、次いで「そのうち就労したいと考えている」28.6%、「就労していないが利用したい」4.8%「学生である、又は就学したい」3.2%と続いており、就労以外の理由も見受けられます。このほか、現在利用している人の希望としては、9割弱が学年の延長を、半数が時間の延長を望んでいます。

(3) 仕事と子育ての両立の状況

ア 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること

仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることについては、就学前児童と小学校児童の保護者ともに「子どもや自分が病気・けがをしたときに代わりに子どもを面倒を見る人がいない」が 56~57%で最も多く、次いで「子どもと接する時間が少ない」38~39%、「残業や出張が入ってしまう」26~27%が挙げられている。

仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること(2つまで選択)

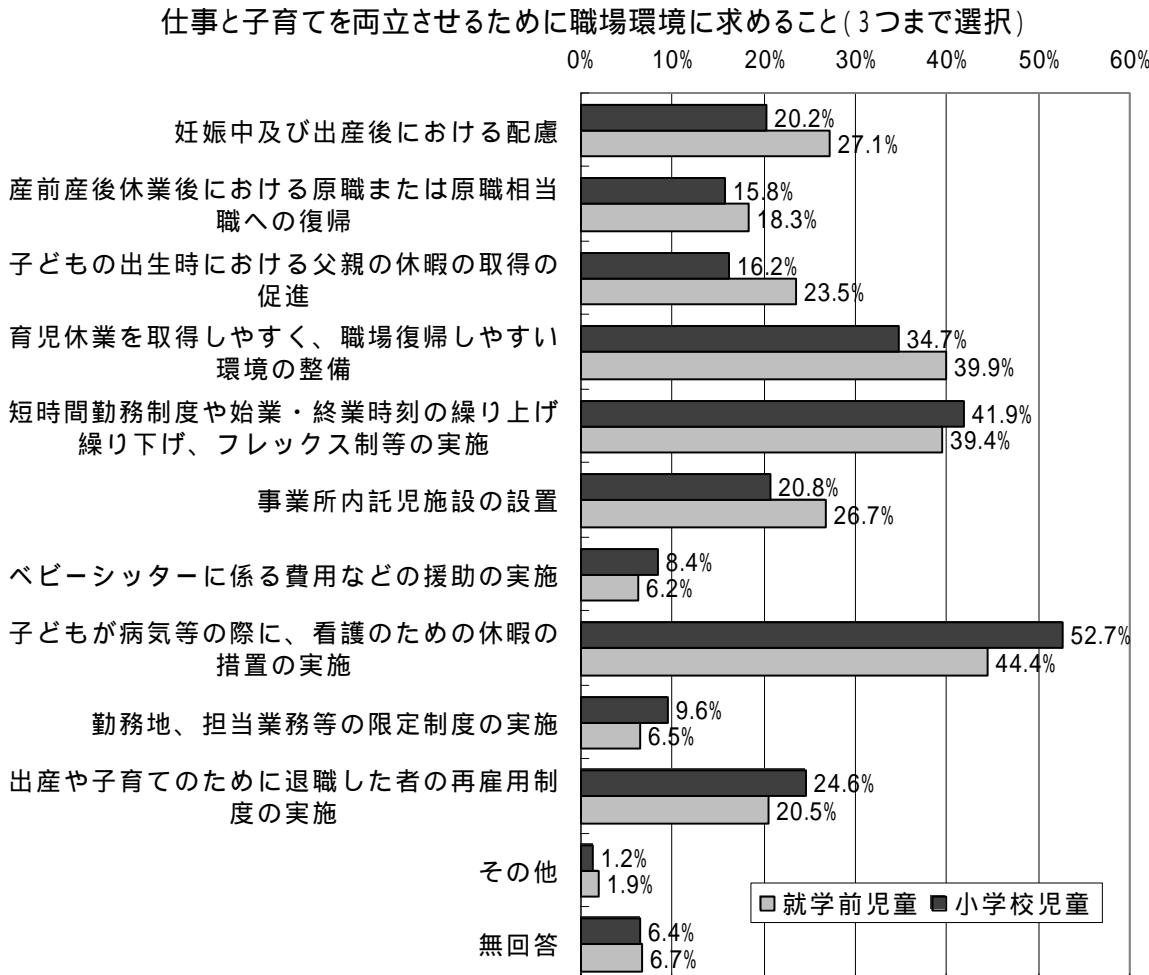


京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

イ 職場環境に求めること

男女が共に仕事と子育てを両立するために職場環境に求めることは、就学前児童と小学校児童ともに「子どもが病気等の際に、看護のための休暇の措置の実施」が最も多く、次いで、就学前児童では「育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい環境の整備」、「短時間勤務制度や始業・終業時刻の繰り上げ繰り下げ、フレックスタイム制等の実施」、「妊娠中及び出産後における配慮」、「事務所内託児施設の設置」、「出産や子育てのために退職した者の再雇用制度の実施」の順に挙げられています。しかし、小学校児童では「短時間勤務制度や始業・就業時刻の繰り上げ繰り下げ、

フレックスタイム制等の実施」、「育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい環境の整備」、「出産や子育てのために退職した者の再雇用制度の実施」、「事務所内託児施設の設置」、「妊娠中及び出産時における配慮」、「子どもの出生時における父親の休暇の取得の促進」の順で挙げられています。



京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

ウ 育児休暇を取得しなかった理由

母親の育児休業の取得率は 15.7% と少なく、約 7 割は育児休業を「取得していない」と回答しています。これは、就労している母親が 30% 程度と少なかったためであり、就労している母親に限ってみると、約半数は育児休業を取得しています。

一方、父親の育児休業の取得率は 0.7% と極めて少なく、9 割以上が「取得していない」と回答しています。その理由については、「職場に育児休業を取得しにくい雰囲気があった」と「仕事が忙しかった」が共に 3 人中 1 人の割合で挙げています。次いで、「収入減となり、経済的に苦しくなる」、「配偶者が育児休業制度を利

用した』、「仕事に戻るのが難しそうだった」、「昇給・昇格等が遅れそうだった」の順に続いており、職場における育児休業制度への理解、とくに男性が制度を利用することに対する理解が十分でないことがうかがえます。

(4) 母と子の健康づくり支援

母と子の健康づくり関連の事業は、母子保健事業を中心に継続して実施していますが、平成11年度から一貫して相談件数の増加が見られます。

乳幼児健康診査受診状況の推移

		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
3か月児 健康診査	受診児数(人)	466	510	523	509	501
	受診率(%)	95.3	96.2	94.6	94.1	94.7
10か月児 発達相談	受診児数(人)	473	469	504	504	513
	受診率(%)	91.5	84.0	91.5	89.5	91.4
1歳6か月児 健康診査	受診児数(人)	461	488	506	534	507
	受診率(%)	90.9	91.6	90.2	91.0	91.0
2歳児 発達相談	受診児数(人)			424	487	478
	受診率(%)			79.8	81.8	82.7
3歳6か月児 健康診査	受診児数(人)	457	522	503	489	489
	受診率(%)	90.9	86.4	86.7	86.9	84.2

資料：健康推進課

訪問指導実施状況の推移

		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
新生児 指導訪問	延人数(人)	68	11	10	31	48
	実人数(人)	68	10	10	31	42
乳児 訪問指導	延人数(人)	120	223	200	220	179
	実人数(人)	118	217	196	212	161
幼児 訪問指導	延人数(人)	20	23	13	58	75
	実人数(人)	16	14	12	47	56
妊娠婦 訪問指導	延人数(人)	0	0	1	1	6
	実人数(人)	0	0	1	1	4
産婦 訪問指導	延人数(人)	159	230	210	238	217
	実人数(人)	159	223	208	234	201

資料：健康推進課

妊娠婦・乳幼児に対する相談・指導実施状況の推移

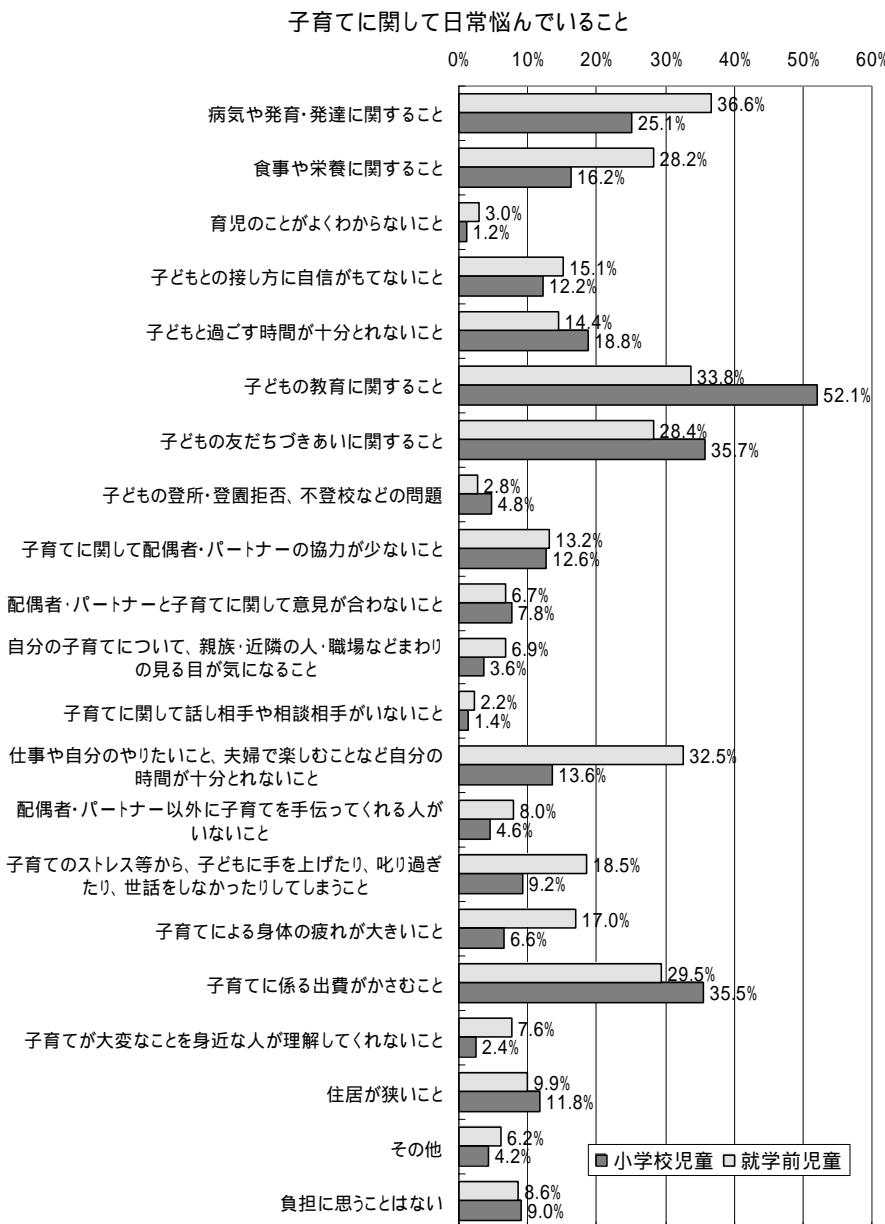
		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
離乳食講習会(人)	939	979	1,027	1,013	1,014	
妊婦教室(人)	225	223	231	268	251	
妊娠婦・乳幼児相談(人)	786	958	1,164	1,128	1,212	
歯科健康教室(人)	523	522	1,568	1,568	2,060	
栄養相談(人)			179	157	157	

資料：健康推進課

(5) 子育てに関する保護者の意識

ア 子育てに関して日常悩んでいること

アンケート調査では、就学前児童では育児にかかりきりになっていることからくる悩みが、小学校児童では子どもの教育や友だち関係などの悩みが挙げられているのが特徴的です。

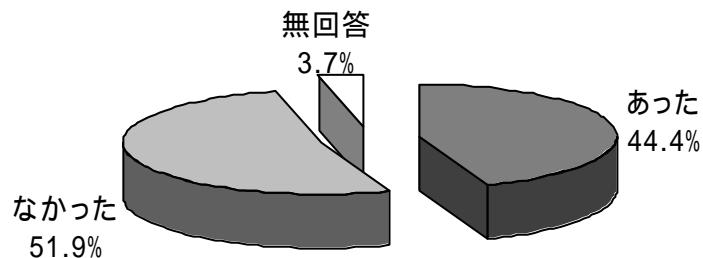


京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

イ 子育てから離れてリフレッシュしたいと思ったことの有無

この1か月の間に、平日及び土曜日・休日に関係なく、普段利用していない保育サービス（保育所、認可外保育施設、ベビーシッター、ファミリー・サポート・センター事業など）を利用して、子育てから離れてリフレッシュしたいと思ったことの有無については、「あった」が44.4%、「なかった」が51.9%となっています。

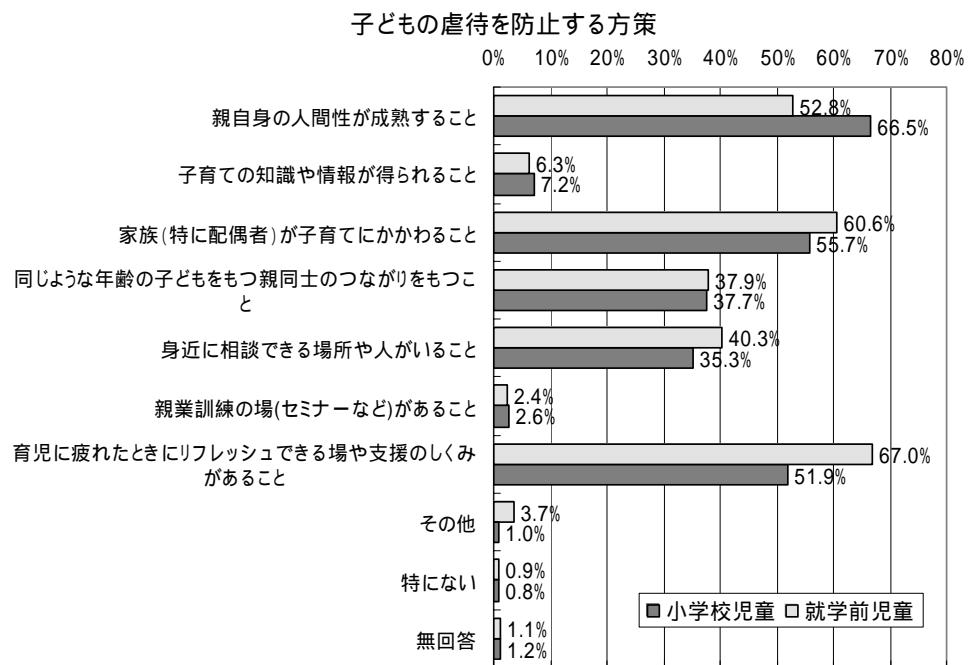
保育サービスを利用したリフレッシュ希望の有無



京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

ウ 子どもの虐待を防止する方策

子どもの虐待を防止するために必要なこととしては、就学前児童保護者では「育児に疲れたときにリフレッシュできる場や人などのしくみがあること」が、小学校児童保護者では「親自身の人間性が成熟すること」が最も多く挙げられています。とりわけ就学前児童保護者は、子育てから離れてリフレッシュしたいと思ったことがなくても、リフレッシュの必要性・有効性を感じていることがうかがえます。

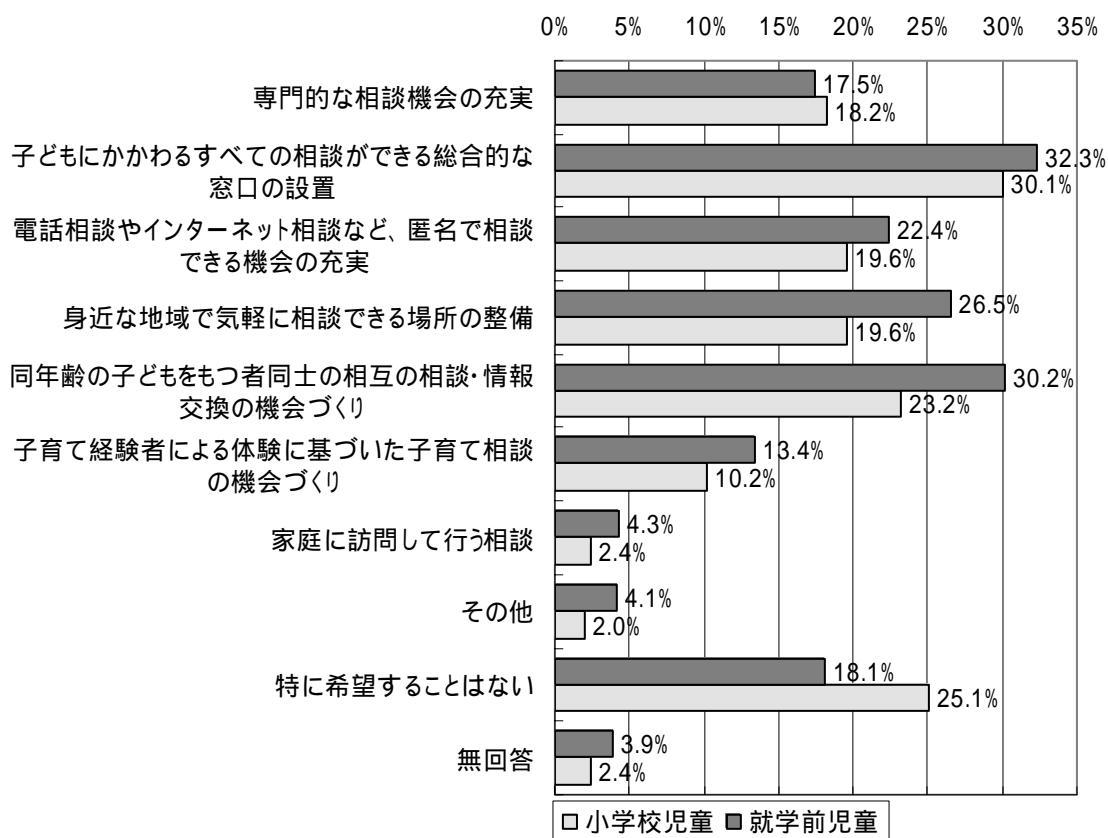


京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

エ 子育てに関する悩み等について

子育ての悩み等の相談について希望することとしては、就学前児童保護者、小学校児童保護者共に「子どもにかかわるすべての相談ができる総合的な窓口の設置」が最も多く、次いで「同年齢の子どもをもつ者同士の相互の相談・情報交換の機会づくり」が続いています。

悩み等の相談についての希望

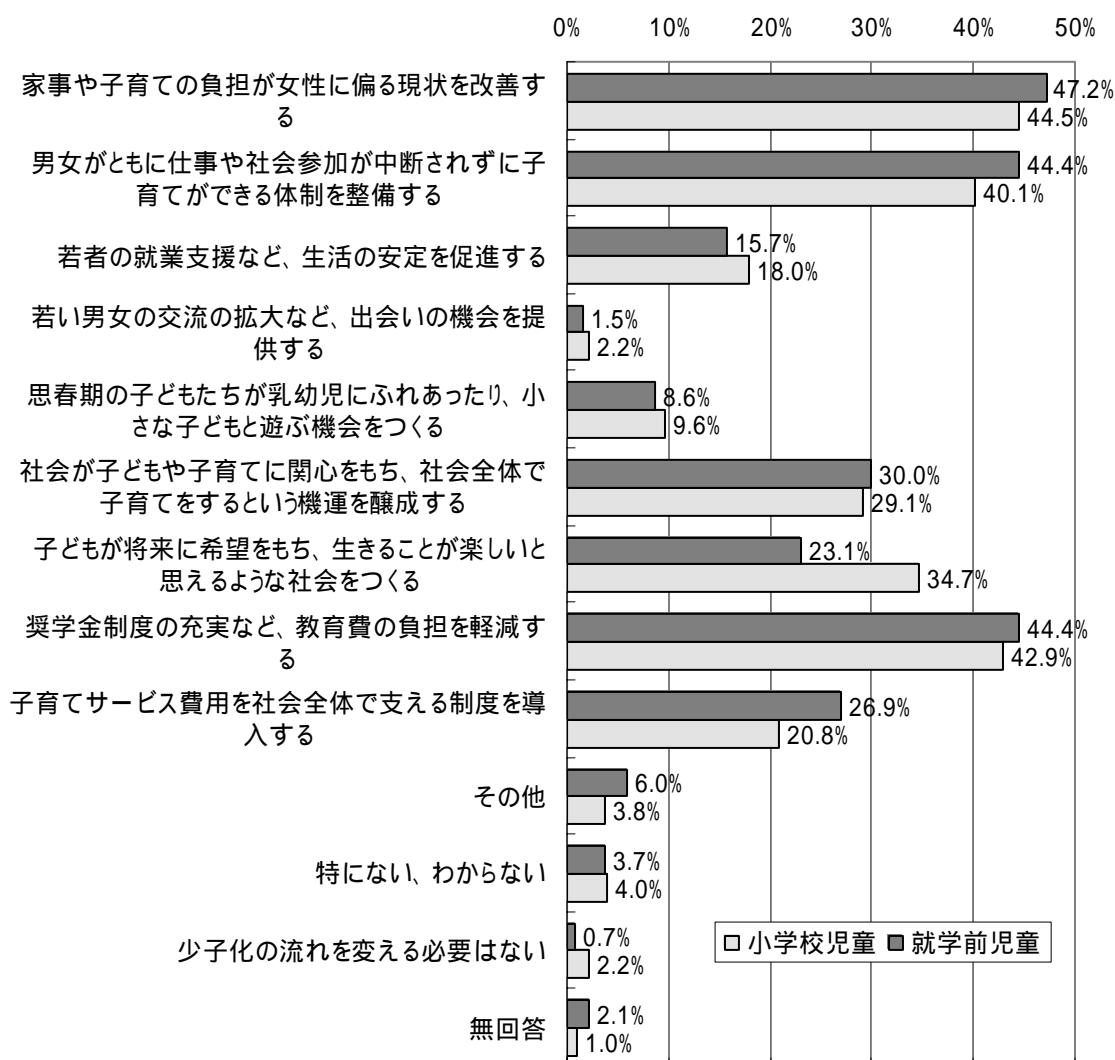


京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

(6) 少子化の流れを変えるために

少子化の流れを変えるための取組みについては、就学前児童保護者、小学校児童保護者共に半数の人が「家事や子育ての負担が女性に偏る現状を改善する」を挙げています。次いで「奨学金制度の充実など、教育費の負担を軽減する」「男女ともに仕事や社会参加が中断されずに子育てができる体制を整備する」を5人中2人が挙げており、男女共同参画社会の実現に向けた取組みと子育てに係る費用、とりわけ教育費の負担の軽減に向けた取組みの重要性が挙げられています。

少子化の流れを変えるための方策



京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

(7) 子育てと地域社会

ア 子どもの遊び場等

アンケート調査では、小学校児童が平日に日頃遊んでいる場所としては、自宅を除くと「友だちの家」、「公園」が多くなっています。遊び場の現状に対しては、「雨の日に遊べる場所がない」が就学前児童、小学校児童とも最も多く挙げられていました。

都市公園の設置状況(平成 16 年度)

区分	
総合公園	田辺公園
運動公園	田辺木津川運動公園、草内木津川運動公園
近隣公園	諏訪ヶ原公園
街区公園	114か所

資料：都市整備課

地域の団体による子どもの主体性の育成や健全育成のための取組みとしては、地域の子ども会をはじめとする各種の子育て関係団体や民生児童委員・主任児童委員による活動などがあります。また、スポーツ少年団をはじめさまざまな文化・スポーツ等活動団体があり、子どもたちにさまざまな体験や活動の機会を提供しています。

地区別子ども会数(平成 16 年度)

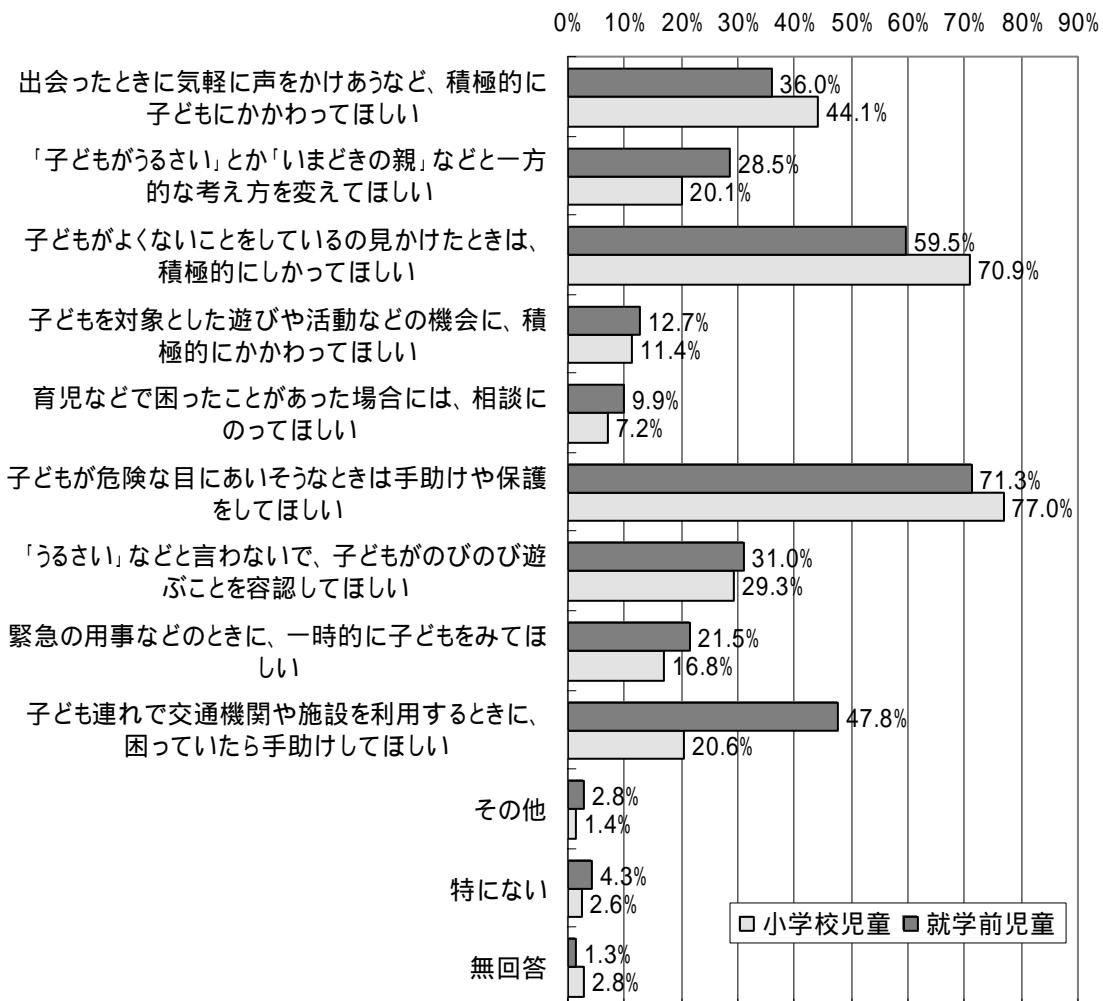
	大住	松井ヶ丘	桃園	薪	田辺	田辺東	草内	三山木	普賢寺
団体数(単位)	9	3	4	4	6	2	3	10	6
会員数(人)	289	324	436	472	501	898	364	351	142

資料：中央公民館

イ 子育てのために望まれる地域社会

アンケート調査では、地域社会に対しては、「子どもが危険な目にあいそうなときは手助けや保護をして欲しい」や「子どもがよくないことをしているのを見かけたときは、積極的にしかってほしい」といった、かつてあった地域の保育力に期待するものや「子ども連れて交通機関や施設を利用するときに、困っていたら助けてほしい」といった思いやり・マナーについても挙げられており、子育てを核に地域コミュニティや地域活動の活性化が求められています。

子育てのために望まれる地域社会



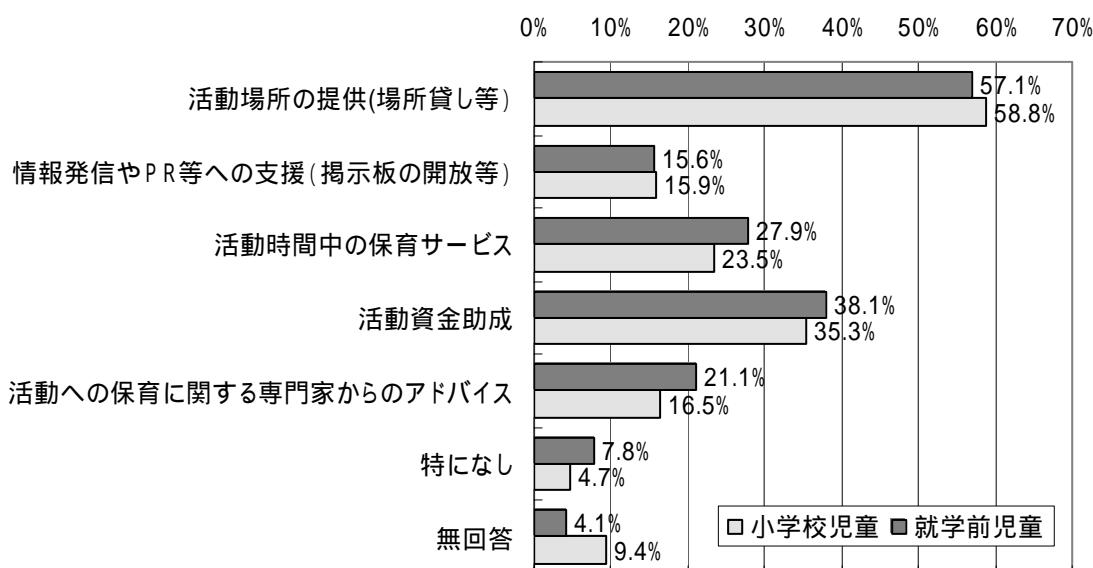
京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

(8) 行政サービスへの要望

ア 自主的活動への支援

子育てサークルなどの自主的な活動を行うにあたり、行政に期待する支援策としては、「活動場所の提供(場所貸し等)」が最も要望が多く、次いで「活動資金助成」が挙げられています。

自主活動を行うために期待する行政の支援



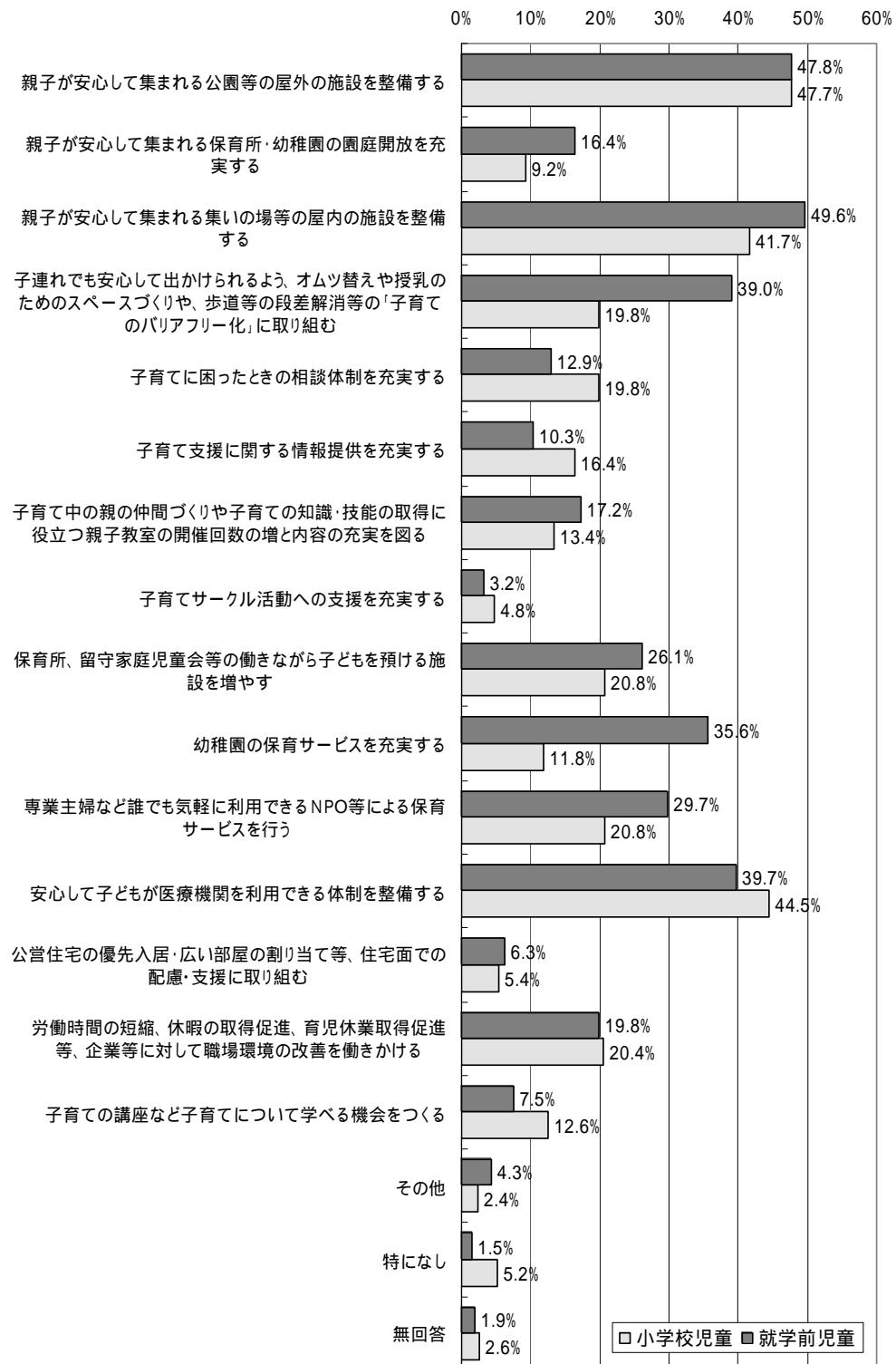
京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から

イ 期待する子育て支援策

行政に対して、どのような子育て支援策の充実を期待しているかについては、就学前児童保護者では「親子が安心して集まれる集いの場等の屋内の施設を整備する」が最も多く、次いで「親子が安心して集まれる公園等の屋外の施設を整備する」「安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」「子連れでも安心して出かけられるよう、おむつ替えや授乳のためのスペースづくりや歩道等の段差解消等の『子育てのバリアフリー化』に取り組む」「幼稚園の保育サービスを充実する」を上位に挙げています。

小学校児童保護者では「親子が安心して集まれる公園等の屋外の施設を整備する」が最も多く、次いで「安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」「親子が安心して集まれる集いの場等の屋内の施設を整備する」を挙げています。

行政に期待する子育て支援策



京田辺市次世代育成支援に関するアンケート調査から